

**Citation:** Kelly SAM, Frost G, Whittaker V, Summerbell CD. Low glycaemic index diets for coronary heart disease. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2004, Issue 4. Art. No.: CD004467. DOI: 10.1002/14651858.CD004467.pub2.

**CRG名:** Heart

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 14 May 2006

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 4, Update

**背景:** グリセミックインデックス(GI)は、糖質摂取後の血糖値の上昇程度を示す生理学的な指標である。リスクのある人または確定した冠動脈性心疾患のある人の臨床管理における低GI炭水化物の使用に関心が高まっている。この分野のランダム化比較試験(RCT)から得られた最新のエビデンスをレビューする必要がある。

**目的:** 確定した冠動脈性心疾患(CHD)のある人またはその危険因子のある人を対象に、低GI食の摂取とCHDおよび関連危険因子に対するその効果との関連性を評価しているRCTからのエビデンスをレビューする。

**検索戦略:** CENTRAL(コクラン・ライブラリ2006年第2号)、MEDLINE(1966年~2006年6月)、EMBASE(1980年~2006年7月)およびCINAHL(1982年~2006年7月)を検索した。また、この分野の参考文献を検索したほか、専門家に問い合わせた。言語に制約はもうけなかった。

**選択基準:** CHDおよびCHD危険因子に対する低GI食の効果を最低4週間にわたって評価していたRCTを選択した。これに含まれた参加者はCHDの主たる危険因子、例えば脂質異常、糖尿病、過体重などを少なくともひとつを有している成人、もしくはCHDとすでに診断されている成人であった。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に試験の質を評価し、データを抽出した。必要に応じて選択した研究の著者に問い合わせして追加情報を得た。

**主な結果:** 21件のRCTを選択した。参加者計713名がランダム化された。CHD死亡率またはCHD事象および有病率に対する低GI食の効果を報告していた研究は見出せなかった。選択した21件の研究はいずれもCHDの危険因子に対する低GI食の影響を報告したものである。メタアナリシスの結果、低グリセミックインデックス食の摂取により総コレステロール値がわずかに低下するという限られた弱いエビデンスが検出された。しかし、糖尿病に関する研究のみを分析に含めたところ、総コレステロールに対する効果のエビデンスは認められなかった。メタアナリシスで研究を統合したところ、LDLコレステロール、HDLコレステロール、トリグリセリド、グリコシル化ヘモグロビン(HbA<sub>1c</sub>)、空腹時血糖、空腹時インスリンの値に対する低グリセミックインデックス食の効果に関するエビデンスはほとんど得られなかった。しかし、個々の研究の大多数は低GI食によりグリコシル化ヘモグロビン(HbA<sub>1c</sub>)値がわずかに低下したことを報告している。

**レビューアの結論:** 冠動脈性心疾患に対する低GI食の効果を示すRCTからのエビデンスは存在しない。しかし、CHDのいくつかの危険因子に対する小さな効果の弱いエビデンスが認められた。同定された試験の多くは短期間であり、あまり質が高くないもので、臨床的に重要な差を検出するための十分な検出力はなかった。研究から得られたエビデンスを統合したところ、CHDおよびその危険因子に対する低GI食の有益な効果は小さいことが示唆された。優れたデザインで適切な検出力を有する12週間以上にわたるランダム化比較研究を実施し、CHDに対する低グリセミックインデックス食の真の効果を評価する必要がある。

(監訳 澤村匡史)

翻訳公開日: 09年2月20日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版

の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業の都合上、英語版の内容をご確認ください。